

幼保小連携研修だより

NO. 1

秋田市教育研究所
H29. 12. 20

幼児期から児童期が、生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期であることを踏まえ、子どもたち一人ひとりが安心して小学校生活を始め、自信や意欲を持って活動することができるよう、幼児教育と小学校教育との円滑な接続に努めることが大切です。秋田市では、幼保小連携の充実を図るため、平成19年度より小学校と幼稚園、保育園・保育所の教員や保育士を対象とする研修会（「幼保小連携研修会」「生活科研修会」「特別支援教育研修会」）を実施するとともに、平成25年度にスタートカリキュラムのモデル版を作成し、各小学校に周知を図っているところです。今号では、今年度の「幼保小連携研修会」と「生活科研修会」の様子を紹介いたします。

幼保小連携研修会

ねらい 幼児教育についての理解や小学校教育との連携のあり方についての研修を通して、幼保小連携に関する今日的な教育課題に対応できる資質や能力の向上を図る。

日時 平成29年8月3日（木） 9:00～12:00
会場 秋田市教育研究所
参加者 小学校教員、幼稚園・保育園（所）・認定こども園
教職員49名



内容 (1)講義 「幼児教育の現状と小学校との接続について」
幼保連携型認定こども園
にいだこども園長 石川 勲氏
(2)グループ協議 「スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムに
生かす情報交換」

～講義から～

◇子どもにとって園と小学校の違いは？

遊び → **教科学習**（机と椅子の生活へ）

- ・一番上から一番下へ 退化現象！？
「できることもできなくしてしまう・・・」
- ・遊びを通して成長 → 話しの聞ける子へ
- ・幼保は、小・中学校を見据え子どもを育てる意識を
- ・小学校は、保護者との距離を縮める工夫を
- ・小学校は、遊びやを学びに生かす意識を

◇幼保小の連携で大切にすべきは？ **相互参観すること**

- ・お互いの子どもの実態を知る。
- ・入学前の打合せの有効活用（学級編制用ではない）
- ・入学後の子どもの様子を見て語る。
- ・日常的に情報を伝え合える体制づくり
- ・園児が小学校の活動を見たり、体験したりする。

～グループ協議から～

◇課題もあるが、同じ心構えで取り組んでいることもたくさんあることを確認できた。

◇スタートカリキュラムを見て、4月の過ごし方が分かった。情報交換が大切。

◇5歳児から、翌日の準備を自分でできる。小学校ではできていないのか？

◇幼保の取組が小学校で生かされていると嬉しい。

◇お互いに見ることで共有できるのではないかな。

生活科研修会

ねらい 新学習指導要領を踏まえた生活科の授業づくりについて研修し、教科指導の専門性を高める。

日時 平成29年8月3日(木) 13:30 ~16:45

会場 秋田市教育研究所

参加者 小学校教員、幼稚園・保育園(所)・認定こども園教職員
29名

内容 (1)講義・演習 「新学習指導要領を踏まえた授業のあり方
~みんなのここにこ大きくせん~」

(2)グループ協議 「幼児と児童の交流活動の計画」

~講義・演習から~

「生活科について」

幼児期の教育

小学校の教育

○遊びを通した
総合的な学び
○直接的・具体的
体験を通して
学ぶ

○教科等の学習
を通した体系的な
学び
○教科書や地域の
学習材等を活用して
学ぶ

生活科

※幼児期の教育と小学校の教育、両方の
性格をあわせ持つ教科
※幼児期から新入児童期の学びをつなぐ
役割

「みんなのここにこ大きくせん」(9時間)
単元計画を作成しよう。

【模擬授業】

施設指導室 松淵 陽子指導主事

○わたしのここにこどんとき
絵本「ぐりとぐらのおおそうじ」
の読み聞かせをする。

※参加者は、1年生になったつもりで「ぐりとぐらのおおそうじ」を聞き、1年生からどんな思いや願いが出るかを考えました。



※子どもの思いや願いを生かしながら、
どんな活動を設定したらよいか、話し
合いました。

~グループ協議から~

「幼児と児童の交流活動の計画」

①付箋に書く。

(小学校教員)

- ・小学校教員の願い(黄緑色)
- ・児童の思い(黄色)

(幼保等教職員)

- ・幼保等教職員の願い(青色)
- ・幼児の思い(ピンク色)

②画用紙に付箋を貼りながら交流する。

③交流会の内容を考える。

1年生には、交流を通して、こんな力を身に付けさせたいな。

幼稚園児は、こんなことが心配だったり、不安だったりするのは・・・。

